

前回のVol.22に続いて、つるの遊具からご案内します。この公園は平成7年(1995年)に開園しましたが、整備工事は平成4年から始められており、平成6年につるの遊具の施設は作られました。やはり「まめ」にこだわったユニークな施設が設置されていましたが、残念ながら老朽化により当時の施設は残されていません。現在の施設からは、このエリアの名前の由来は想像できないと思います。

このエリアを離れ、坂の園路を上がっていくと、展望台に到着します。藤沢方面から富士山までの眺望が開けますが、ここに併設された花壇と一体になった形は、豆のサヤを割ったような形状です。



展望台と花壇

展望台を背にすると空の広場が現れます。この広場には変わった施設は設置されていませんが、よく見ると豆の実のような形の広場です。

この広場の右手には、小ぶりの雲の広場があります。ここのパーゴラやベンチなどは、豆のサヤや実をイメージして作られているようです。



雲の広場にある変わった施設

雲の広場に整備された植樹柵もユニークな形です。丸い小石を表面に埋め込んだコンクリート製の柵は、途切れた円形だったり、とぐろを巻いた形もあります。これらは、豆の莢から生えた巻きひげをイメージしているのでしょうか。



園内にはユニークでメルヘンな施設が数多くあるため、紹介のし甲斐もありますが、なかなか案内が進みません。申し訳ありませんが、次回で終わらせたいと思いますので、お付き合いのほど、よろしくお願いします。